

平成28年  
蓮田病院  
統一標語

笑  
しょう

# 蓮田病院広報

第46号 7・8月号



熊本地震により

被災された方々、ご家族  
の皆さまに心より  
お見舞い申し上げます。

蓮田病院職員一同

## 蓮田病院理念

“思いやりのある やさしい医療”  
“最新の高度医療”

発行：蓮田病院広報部  
連絡先：048-766-8111 蓮田病院総務課  
発行日：平成28年7月1日

## 入退院支援室だより

入退院支援室 主任  
飯島 栄治



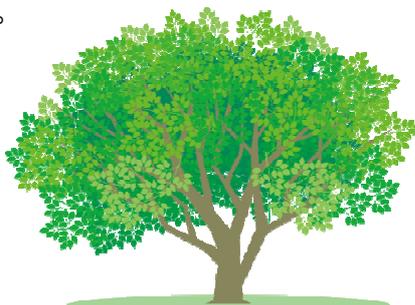
夏至を過ぎたとはいえ、梅雨寒に震える日もありますが、今年の夏はラニーニャ現象の発生が予想され、気温が平年より厳しい暑さに見廻れそうです。

入退院支援室は業務を開始して、はや2年3ヶ月経ちました。当室では「患者さまが安心して入院治療を受けられる」ことを目的として運営しております。病診連携室と医療相談室と協力して「予約入院の手続きや説明」を行い、予約入院される患者さまやご家族さまの不安軽減に努めております。

さて、「限度額適用認定書」について、ご存じでしょうか。「限度額適用認定書」は、入院や外来診療・調剤薬局等での医療費の支払い額が、国で定める自己負担限度額を超えて高額となる時、窓口での支払いを法定の自己負担限度額までにとどめることができるものです。法定の自己負担限度額(医療機関の窓口で支払う金額の上限)は被保険者の所得区分で異なります。「限度額適用認定証」の提示により、医療費の支払いが高額になっても一定額にとどめられ、予め多くのお金を準備するなどの経済的負担を軽減することができます。(詳細は、入退院支援室にお尋ねください)

今後とも、入院を控えご不安やご心配事を少しでも軽くし、安心・安全に入院生活を送って頂けますよう取り組んで参ります。また、高齢者の方で退院後の施設「サービス付高齢者用住宅・花みずき白岡」についてのご質問やご相談も受付しておりますのでご遠慮なくお尋ねください。

年々、夏の暑さが増しているように感じますが健康に気をつけ、これからの夏を乗りきりましょう。



## 山歩きのすすめ



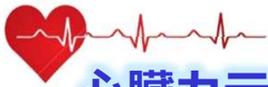
医師 内科部長  
西田 淳二



選挙やら芸能関係やらの話題で賑やかな昨今、今夏のトピックと言えばやはりリオのオリンピックでしょう。女子サッカーは残念でしたが、日本のお家芸の柔道や体操、若手の伸長著しい水泳など、期待したいところです。ジカ熱で選手が出場をやめたり、政治経済が混乱しているなど不安材料もたくさんありますが、カーニバルのお国柄ですから、大いに盛り上がることでしょう。

私はスポーツを観るのが好きで名勝負にはしばしば感動の涙を流します。でも自分でやるのは苦手です。昔から運動神経が悪い上に、技を競って負けるのが癪だからです。数少ない競わない運動として、学生の頃から山歩きを細々と続けてきました。皆さんは日本百名山をご存知でしょうか？深田久弥という文筆家兼登山家が1964年に著した随筆で紹介された日本の100座の山です。1978年には日本山岳会が、その100座に200を加えて日本三百名山を発表し、1984年には深田ファンクラブが百名山に100を加えて日本二百名山を選定しました。「〇〇名山」にはその他に「花の百名山」や「〇〇県百名山」などいろいろあります。8年ほど前に百名山くらいは登っておこうかと思い立ち、それが二百名山、三百名山へと目標が次第にエスカレートして現在に至っています。これまでに登って来た印象を簡潔に表現するなら、百名山は「感動」、二百名山は「充実」、三百名山は「忍耐」、です。人にこの話をする時、「どうして山に登るんですか？」と必ず訊かれます。花を見たい、絶景を見たい、清々しい、など理由は人それぞれですが、私の動機の中にはそれら他に、強くなりたいたいという「向上心」と、頂上に到達した時の「達成感」があるようです。これは他のスポーツにも共通するものではないかと思っています。

老いは脚から来る、と言います。年齢とともに体力が衰え、腰痛症にもなりましたが、山歩きは体力の範囲内で、健康のために続けようと考えています。皆さんもいかがでしょうか？



## 心臓カテーテル検査チームのご紹介



循環器内科病棟師長 竹中 証

循環器内科病棟に入院される患者様の疾患は、主に心不全、虚血性心疾患と言われる病気があげられます。**虚血性心疾患**とは、「冠状動脈硬化症（かんじょうどうみやくこうかしょう）」ともいわれる病気で、心臓を動かすエネルギー（血液）を運ぶ血管である「冠状動脈」が硬くなって内腔が狭くなったり、つまったりしてしまう病気です。

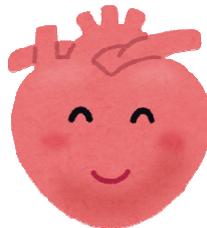
これが原因で、心臓を動かす筋肉に血液を十分に送れなくなり「狭心症」やその筋肉の一部が壊死（えし）してしまう「心筋梗塞」があります。

症状としては胸を締めつけられる痛みや息苦しさを感ずることがあります。実際に血管が狭くなっている場合には、カテーテルという管を足や腕のつけ根から血管に入れ、冠動脈内で風船のようにふくらませ、動脈を広げる「カテーテル治療」が行われることもあります。

当病棟では、平成28年4月から山本真先生が就任された事により、虚血性心疾患の患者様が多く入院してこられるようになりました。虚血性心疾患は命に直結する病気ですので、迅速に心臓カテーテル治療に望むことが出来るように、医師も各部門、病棟スタッフともに力を合わせて取り組んでおります。

今回は心臓カテーテルチーム（以後、心カテチームと略）のご紹介をさせていただきます。心カテチームのメンバーは山本真医師、臨床工学技士、診療放射線技師、臨床検査技師、看護師のメンバーで構成されています。心カテが行われる場合は血管造影室で上記のメンバーが5～7名で検査・治療を行います。現在は、毎週火曜日が心カテ日になっていますが、緊急で心カテ治療を行う事も少なくありません。所要時間は検査のみでしたら30分前後となります。緊急の場合は診断後（30分以内）いかに迅速に集まり、準備を行い、検査・治療が始められるかが生命の危機を救う「鍵」になっております。緊急時に備えて毎週1回、医師をリーダーに心カテ後には症例検討会を行っております。また、医療機器や使用する物品も特殊で精密であることから心電図の解析などの知識と熟練した技術が必要であるため、院内研修の企画・院外研修の参加など、日々学ぶ姿勢と向上心を持って取り組んでおります。また、夜間においても救急外来の他の医師と連絡を取り、すばやく対応出来るシステムも構築致しました。

特に、心臓カテーテル検査の前後は患者様も、ご家族も不安感を抱くことが多いと思います。患者様及びご家族の方々には十分ご説明を申し上げ、少しでも不安が軽減できるよう当院の理念であります「思いやりのある優しい医療」を目指してまいります。



### 平成28年度優良特定給食施設として 埼玉県知事表彰を受賞！！

ちょっと良い話！！

このたび、蓮田病院は「給食を通じて栄養改善に寄与するとともに給食の管理運営に顕著な成績を収めた」とのご評価をいただき、優良特定給食施設として「埼玉県知事表彰」を受賞いたしました。今年度の受賞施設は、3施設でした。

これを励みに、今後とも職員一同患者さまお一人おひとりに安心で安全かつご満足いただける入院給食のご提供に頑張ってお参ります。どうぞご期待ください。



平成28年6月11日

### 地域包括ケア病棟オープン！！

平成28年7月1日より地域包括ケア病棟がオープンしました。地域包括ケア病棟とは、急性期治療を終了し退院するのに不安のある患者様に対し、在宅復帰に向けて治療・看護・リハビリテーションなどを行うことを目的とした病棟です。在宅や施設（一部の施設を除く）に復帰予定の方であれば対象となり、リハビリテーションをしていない方も対象となります。

「在宅復帰支援計画書」に基づいて、主治医・看護師・理学療法士・在宅復帰支援担当者などが協力して、患者様のリハビリテーションや在宅支援を行います。入院期間は、入院の必要に応じて最長60日までで、症状が安定しましたらご自宅や施設へ退院していただきます。

ご不明な点は、**C6病棟在宅復帰支援担当者**までお問い合わせ下さい。

### 蓮田病院公開講座のお知らせ

日時：平成28年8月5日（金） 13:30～14:40

講師：1. あなたもロコモ？ロコモってなんだろう？

医師 整形外科 櫻村 いづみ

2. 60代70代80代を健康に迎える運動と日常の

注意を含めて～患者様との会話の中から～

理学療法士 早川 信人

参加費：無料

お問い合わせ：病診連携室 TEL 048-766-3660

※諸事情により講師及びテーマが変更になる場合がございますのでご了承ください。